

## ICT街づくり推進会議 地域懇談会@四国（愛媛） 議事要旨

### 1. 日時

平成26年4月9日（水）15:00～16:30

### 2. 場所

愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール

### 3. 出席者

- (1) ICT街づくり推進会議構成員  
岡座長、須藤構成員、村上構成員
- (2) ICT街づくり推進会議普及展開WG構成員  
梶浦構成員、桑津構成員、齋藤（義）構成員、関構成員、細川構成員、三崎構成員、武藤構成員
- (3) 愛媛県松山市における実証プロジェクト関係者  
野志松山市長、浅井愛媛大学教育学部副部長、伊賀瀬愛媛大学医学部抗加齢・予防医療センター長、森田松山商工会議所会頭、中島松山市観光・国際交流課主査
- (4) 愛媛県新居浜市における実証プロジェクト関係者  
近藤新居浜市副市長、大橋（株）ハートネットワーク代表取締役、伊藤（株）ハートネットワークメディア事業局長
- (5) 総務省  
上川総務副大臣、阪本情報通信国際戦略局長、元岡四国総合通信局長（司会）

### 4. 議事

- (1) 愛媛県松山市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
- (2) 愛媛県新居浜市におけるICT街づくり推進事業の取組等について
- (3) 意見交換

### 5. 議事概要

冒頭、上川副大臣及び岡座長より、それぞれ挨拶があった。主な内容は以下のとおり。

- (1) 愛媛県松山市におけるICT街づくり推進事業の取組等について  
野志松山市長より、資料1に基づき説明が行われた。

(2) 愛媛県新居浜市におけるICT街づくり推進事業の取組等について  
近藤新居浜市副市長より、資料2に基づき説明が行われた。

(3) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

**【村上構成員】**

○スマイル松山プロジェクトを拝見してみて、横展開をどんどん進めていくに  
足るプロジェクトであるという印象を受けた。横展開するための取りまとめ  
方も意識してやって欲しい。その際には、コスト（お金や人）とベネフィット  
をわかりやすくまとめて伝えられるようにしてほしい。ベネフィットに関  
しては、定量データだけでなく、わかりやすい形（骨密度の向上を年齢で表  
す、等）で取りまとめるとより伝わりやすい。

**【野志市長】**

○今後の展開としては、予防領域から、介護予防における利活用へと広げ、医  
療費・介護費の適正化につなげていきたい。  
○今年度の継続にかかる費用は約1000万円であり松山市の予算を充当してい  
る。基盤は既にあるので、現在500人の対象人数が増えてもランニング費用  
はさほど増えない。愛媛大学の医学部、教育学部と連携してできるだけ早く  
1万人規模にしたい。

**【浅井副学部長】**

○企業に対しても展開をしてきたが、やはり企業の方は忙しい。自治体、企業  
と連携して市民が運動できるような環境を整備するにあたり、協議会等を設  
けてもらえると動きやすい。

**【伊賀瀬センター長】**

○今回実施したアンチエイジング検査に関して、骨年齢に関していえば、今回  
の実証実験では少なくとも5歳くらいは若返っていると思う。スマートフォン  
で歩数を見るといったやりとりや「少し歩数が減りましたよ」といった情  
報を直接住民へ配信することで、参加者の方からは常につながっているとい  
う感覚が出る、という声があった。  
○ICTの事業でここまでの効果が出るとは思っていなかったが、骨粗鬆や骨  
密度低下などの予防の観点からは重要な取組であると考えている。

#### 【浅井副学長】

- メールを各個人に送信する際には、1対1でアドバイスを送っていることが感じられるような内容でないといけないと思う。二人でやったが、これだと500人が限界であり、状況に応じてその人に適切なアドバイスが送れるようなシステムを作れば、ランニングコストがぐっと安くなると見通している。

#### 【須藤構成員】

- 今後のことを考えると、75歳以上のような方を対象とした虚弱化予防も提供していければ、今後の医療費の削減にも貢献できると思う。また、街全体が健康になることで、社会参画の機会が増えて地域コミュニティが活性化することにもつながるので、その観点も強くしていただきたい。
- 健康増進には、食事も重要なので、レストランや観光を組み合わせる形で工夫ができればより良いものになる気がする。
- 新居浜市の取組に関しては、HTML5はスマートフォンやタブレットに加えて、スマートTVを想定したブラウザであるため、4K、8Kに向けた動きが活発化している。高齢者においては、スマホよりも4Kの大画面の方が良いというケースもある。4Kを使った在宅での行政手続きの研究会も総務省でスタートしており、このようなことも踏まえたケーブルテレビの次の戦略にもつながる。

#### 【野志市長】

- スマイル松山プロジェクトにおいては、「修了式」を行い、表彰等を実施した。楽しいことをやっているという雰囲気伝えて、関心がなかった人の参加にもつながると考えている。
- 今後は分析・アドバイス内容の精度向上を図り、医療費適正化の推進ニーズの高い保険者である地元企業や業界団体と一体となって、社員やその家族の健康づくりへとさらに裾野を広げていきたいと思っている。
- 食事に関しては、松山市には、適正な栄養情報を提供して、市民の健康作りを応援するヘルシーメニュー協力店というものがあり、ここと連携して健康支援を充実させるシステムの拡充を図っていきたい。

#### 【伊賀瀬センター長】

- 2006年からアンチエイジングドッグというものを立ち上げ、前期高齢者を対象に骨粗鬆症が見つかった方にface to faceでのアドバイス等を実施してきた。今回それがスマホでも実現したので、是非それを対象と

する方の年齢層を上げて実証をしていきたい。

○食事に関しては、松山市と協力しながら、アンチエイジングの食事のメニュー等を減塩メニューのような形で進めていきたい。

#### 【伊藤局長】

○今回は離島と山間地という僻地を対象にした健康管理を行ったが、その高齢者の中にはスマートフォンやタブレットではついていけないケースもある。また僻地では携帯電話の電波が入らないこともあり、テレビを使ったシステムを利用してもらおうということを考えていた。それを見据えて当初からHTML5を利用し、テレビで使えることも実証した。

#### 【大橋社長】

○ケーブルテレビはもともとデータ放送をBMLで流しているが、スマートテレビになればHTML5にしておけばすぐに乗換ができる。最初の画面はBMLベースで出て、次の階層からHTML5で提供するといった実験も行っていく。

○テレビは高齢者にとって使いなれており、一番世の中に普及しているデバイスなので、テレビをトリガーにするのが一番早い。スマートフォンやタブレットを使いこなせる人が高齢者になるまではテレビが便利だと思う。また、テレビを使えば、ケーブルテレビ事業者は居住者や家族構成の情報も持っている。緊急時に連絡を取りたいといった際には、公的ID等と連携してセキュリティもしっかりしたものをやっていくことも重要。

#### 【梶浦構成員】

○松山市への質問として、健康作りの直接指導を今後有料にするとあるが、どの程度の価格とするつもりなのか。遠隔の方も少しでも有料化できればいいと感じている。企業健保は赤字で困っているのだから、企業健保を丸ごと遠隔で行うという形もありかなと思っている。

#### 【野志市長】

○15週で5000円～1万円程度と試算している。

#### 【中島主査】

○より低廉で安価なものに関しては、月額の利用料という形でスマートフォンのアプリ等で課金して、受益者負担も考えていきたい。

#### 【森田会頭】

- 普及していく上でお金のことは心配。ICTの進展によってヘルスケアや医療をマスでやれるようになるというのは新しい形であり、意識の向上・啓発には相当な効果があると思っている。
- 家族も含めた従業員の健康管理は企業の責任。忙しくて経営者が徹底できないというところで、市が進めるものに絡める仕組みを作れば、人数も増えてくるのではないか。医療費を健康増進や予防検診に使っていった新しいビジネスが出来て税収が増える、とったサイクルができれば、自治体も国にとっても最高の展開だと思うので、そのような志を持って地域全体で取り組んでいくことが必要だと思っている。

#### 【野志市長】

- 「スマイル松山プロジェクト」が全国で推進されれば、観光事業者や商店街などが得をする。システムの更新や機能拡張の費用を行政が負担するだけでなく、事業者向けの有料サービス等を提供して受益者負担を獲得できれば、持続可能なモデルが構築できると考えている。

#### 【岡座長】

- 重要なことは「持続可能性」。実証から実装、拡大、普及していくにはシステムや事業が持続可能であることが必要であり、そのためには受益者から何かを提供してもらうことは共通のテーマだと思う。

#### 【阪本局長】

- 産官学が連携して進めていることが有効であると感じた。産官学の連携のコンソーシアムをどのように維持していくかが1つのポイント。
- 実証から実装になってくる段階で、横展開できるように各地のベストプラクティス集や共通プラットフォームを作っていないといけない。うまくいった場合、失敗した場合のノウハウを残して集約していきたい。
- 最後は普及させていくことが大きな壁であり、首長のイニシアチブが重要だと思う。これからも引き続き意見交換をしながら次のステップに行きたい。

#### 【岡座長】

- 首長のリーダーシップでどんどん前に進んでいるが、住民の積極的な参加を導き出すことが持続性にもかかわってくるので、知恵と工夫を出すことが必要である。産官学プラス民が必要。
- 徳島においては全てテレビベースで実施されていた。テレビの活用というの

もひとつの方法としてある。一方でスマートフォンをどんどん活用するという観点もあるのも事実。富山市においては高齢者と小学生の交流の機会を作り、小学生が高齢者に使い方を教え、高齢者が小学生にマナーを教える、といった双方にプラスになる形での事例もあったので紹介しておきたい。

【上川副大臣】

- ICTが地域の課題を解決するまとめ役としての役割を果たすことを確信した。
- 議員立法ではあるが、女性の健康を支援する法律が提出されようともしており、今回の街づくりの取組にとっても大きな追い風となるので、進めていきたい。
- 参加率を高めることに関して、どのようなインセンティブを出して参加率を高めていくかは実装に向けて知恵を出すべきところ。
- 幅広い世代に対して、健康に関心をもってもらい意識を高めてもらうためのサポート役として、今回の仕組みが貢献できるようにして欲しい。総務省としても最大限の支援をしていくようにしていきたいと思っている。

以 上